

新型マニシングセンタの導入で 売り上げも受注件数も 30%増

課題

金型製作と部品加工業の両立の 強みを現設備では伸ばせない

平成 18 年に開業した治道精密は、当初、経営者の金型メーカーや部品加工メーカーの勤務経験を活かして金型製作会社としてスタートした。だが、リーマンショック後の外部環境要因により、精密部品加工業へシフトする。200㎡の工場に、工作機械 8 台（汎用旋盤、マシニングセンタ、NC フライス、汎用フライス、研削盤ほか）、3 次元 CAD / CAM システムを導入。各工作機械とのネットワークシステムを構築することで、多種多様かつ大量の部品加工データを効率よく活用した生産をしている。

同社は、金型製作と部品加工を両立させることで、硬い材料を高精度で切削加工する技術という強みをもつ。金型製造業では当たり前となっている 3 次元 CA / CAD だが、部品加工業ではほとんど導入されていないので、現在の 2 本柱の両立体制は優位性がある。そのため、主要取引先からも、同社の部品は高精度で安定していると評判がよく、協力工場としての地位を確立してきた。

だが、増産や他製品の受注が増加すると、現在の設備では生産が追いつかず、受注のとりこぼしが発生するようになった。こうした課題に対して、大和郡山市商工会が、新設備導入の事業計画作成や設備導入資金について、補助金の活用などで支援することになった。

支援

新設備導入で生産力や 品質の向上を実現

商工会では、同社の現状分析によって、強みの洗い出しと市場動向分析、ニーズの掘り起こしを、伴走型小規模事業者支援推進事業による中小企業診断士を活用しながら行った。そこで、同社と経営方針や目指すべき事業領域などを確認し、ものづくり補助金の計画書および経営力向上計画に落とし込み、採択・認定を受けた。

新設備導入後に生産力は向上したが、その一方で、取引先から精度管理を求められることが増えていく。現状の精度測定器では効率が悪く、同社が目指す加工不良ゼロの製品出荷を達成するためには精密測定システムの構築も必要だった。そこで、小規模事業者持続化補助金による精密測定機器の購入を計画。平成 30 年 7 月に採択を受けて、10 月に同社は



ものづくり補助金で導入した新型マシニングセンタ

精密測定機器を購入した。資金は、日本政策金融公庫のマル経融資で対応し、返済負担の低減も図ることができた。

こうした支援の結果、設備導入前と比較して、前年同月比で 30% の売上増加を達成し、新たに受注した製品や治具加工の件数も約 100 件と前年比 30% 増加。商工会の進捗管理により、補助金のスムーズな実施と完了も行うことができた。

今後は、利益率の高い試作品や治具の製作だけでなく、安くても在庫を作ることができる部品加工製品を安定的に受注し、長期的には、新工場への移転も検討している。

支援の経過

期間	支援内容
H28年10月	ヒアリング、ものづくり補助金の申請支援
12月	経営力向上計画の作成支援
H29年3月	ものづくり補助金の採択
10月	設備導入、資金調達支援
H30年5月	持続化補助金の申請支援

会社概要

会社名：治道精密
住所：奈良県大和郡山市天井町200-4
電話番号：0743-53-1554
代表者名：増田純一
創業年：平成18年
年間売上高：2091万円（平成29年）
従業員数：2名
商工会名・担当者名：大和郡山市商工会・南孝明